

# 天体映像で“宇宙旅行”

玉野高・講演会

宇宙空間をリアルに表現できる天文シミュレーションソフト・Mitsukaを使った講演会が11日、玉野高校で開かれた。地球を起点に太陽系や銀河系を周遊する映像を会場に投影し、小中学生や住民ら12人が、宇宙飛行士毛利衛さんのエピソードも披露され、夢を膨らませた。

中部大（愛知県春日井市）の井上徳之教授が講師となり、「いろいろな角度から宇宙を見てみよう」と呼び掛けて出発。地球を飛び出し、宇宙空間を移動する映像がスクリーンに映されると、参加者から「うわー」と声が上がった。太陽系では各惑星に立ち寄り、火星に人を送る計画があることや、土星に関しては無人探査機カッシーニで詳細が分かっていたことを話した。

た。親父が深い毛利衛さんについては、宇宙飛行士になる訓練でわざとさまさまな失敗をしていたことを紹介。「想定外の事態にどう対処するかを考えるため。みんなも練習でたくさん失敗して、経験を成果に変えてほしい」と締めくくった。日比中学校1年伊谷達比古さん(13)は「宇宙についてますます興味が湧いた。しっかり勉強して宇宙に係る仕事をしたい。いつか本当に行ってみたい」と話した。

講演会は地域に開かれた教育を目指し、玉野高が企画した。（近藤哲也）

中部大教授  
ソフト使い説明

小中生ら聞き入る



Mitakaを使って映し出された銀河系の映像



宇宙空間の映像を見ながら井上教授（右）の説明に聞き入る参加者